

日本国債の見通し引き下げも、欧米株高の流れを好感して日本株は大幅反発

2011年4月27日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

好決算を受けて米国株は大幅反発も、ギリシャの財政赤字が計画を上回り、同国国債は急落

米国株式市場は主力企業の好決算を好感し、大幅反発しました。NYダウ、S&P500はともに年初来高値更新し、全セクターが上昇しました。中でも資本財・サービスの大反発が米国株高に最も寄与したほか、テクノロジーやヘルスケアは5日続伸と堅調地合いが継続したことも米国株を押し上げました。米物流大手の通期実質1株利益見通しの上方修正、米コンピューター大手の増配や自社株買いの発表、自動車大手、鉄鋼大手の好決算など個別企業の好材料が好感されました。S & P 500構成銘柄のうち3割程度の企業が決算発表を実施しましたが、その8割近くがアナリスト予想を上回っており、概ね好調な結果となっています。

今晚予定されているFOMC声明文では、QE2が予定通り6月末で終了するとの見方が市場での大方のコンセンサスとなっています。また、今回最も注目されているのがFOMC後初となるバーナンキFRB議長の記者会見です。記者たちが自由に議長に対して質問できるため、何らかの意見や考えを引き出せるのではないかと期待する声も出ています。

米国債券は4日続伸し、米国債利回りは低下しました。バーナンキ議長の会見がハト派的な内容になるとの観測などから終日ショートカバー中心に買いが優勢でした。米国金利の低下を受けてドル指数は6日続落しましたが、一方で金融引き締め観測やアジア中銀によるドルからユーロへの一部移行なども背景にユーロは堅調でした。そのため、円相場は対ユーロでは円安進行も対ドルでは円高基調が続きました。ユーロは足元で堅調ですが、欧州周辺国の財政赤字問題への懸念はますます広がっています。ギリシャの2010年の財政赤字の対GDP比率は10.5%と直近の政府予想(9.6%)を上回りました。これを受けて、市場では財政赤字削減への道のりの厳しさが改めて意識されて同国の国債は急落し、2年物国債利回りは24%台へ急伸しました。CDSスプレッドは1,436bpsまで拡大しており、ギリシャ国債の債務再編懸念が一段と高まっています。

日本国債の格付け見通し引き下げの市場への影響は限定的

欧米株高の流れを受けて国内株は大幅高で始まりました。2011年3月期の当期純利益が予想を上回る赤字となった証券大手株が急落し、証券セクターは逆行安となりましたが、それ以外のセクターは概ね堅調。大型株が堅調で景気敏感株中心に買い戻しが優勢でした。寄り付き後まもなく株価指数先物にまとまった買いも入り、日経平均株価は9,700円台を回復しました。しかし、前引け後、S&Pが日本のソブリン格付け見通しを安定的からネガティブに変更したと伝えられました。これを受けて、円は対ドルで81円台前半から81円台後半へ下落しました。ただし市場の反応は冷静で、円はまもなく下げ渋り、国債先物価格も目立った動きは見られませんでした。株高の一因となっていた外資系経由からの株価指数先物買いのフローが止まったことなどから日本株は一時、9,600円台前半まで上げ幅を縮小する場面があったものの、本日は大引けでTOPIXの月末調整の売買もあり、出来高が若干増えて上げ幅を徐々に広げる展開となりました。ただし、今晚のFOMCに加えて決算や大型連休を控える中、投資家の様子見姿勢は依然として強く、上昇の勢いは非常に緩やかなものとどまりました。結局、日経平均株価は前日比+133円高の9,691円と大幅反発で引けました。

以上